

令和元年度第3回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

1 各団体から頂いた意見

【医師会】

- ・ハンドブック P22「かかりつけ医を持つメリット」の説明を地域の医師が出向いて、一緒に説明したい。
- ・医師会全体を巻き込みたい。このパンフレットの内容はどの医師も活用できる。
- ・地区にいる医師に周知し、「医師が地域に出向いていく」第一歩としたい。草の根的に浸透させないとだめ。
- ・太郎さんは既に「リタイア後」。現役層にアプローチするため、産業医へ展開し、地域に関わっていききたい。

【歯科医師会・歯科衛生士会】

- ・1.①すぐ出来そうなこととして、歯科で外来メンテナンスされている方は月1回の外出機会がある。その必要性をその時に説明できる。
- ・イベント時の「口腔機能測定」。
- ・待合室でのパンフレット設置。
- ・しっかり読むのは意識高い系。
- ・意識がそこまで高くない普通の人向けの啓発ツールもあれば（DVD・デジタルサイン）。
- ・若いスタッフは介護予防の実感が少ないので学習用にパンフレットが使える。
- ・多職種団体との「コラボイベント」も。
- ・4月から「口腔衛生センター」を歯科医師会が受託。
- ・栄養士・歯科衛生士・歯科がチームを組んで派遣できる体制を考えたい。

【薬剤師会】

- ・薬局での周知・健康生活フェア（4・6・10・12月）での活用。
- ・元気シニアにパンフレットを利用した指導を進めたい。
- ・今年度は「脳トレ」をすすめる予定。
- ・8つの扉の項目ごとのチラシがあれば周知しやすい。
例）食事のメニューはどうすれば？（管理栄養士）
服薬指導時に使う
- ・こども食堂（シニアも参加）＝ご飯を食べる場所で活用。
- ・シルバー人材Cなど元気シニアが集まる・働く場で発信。

【訪問看護ステーション協会・認知症疾患医療センター】

- ・訪看で既にサービスを利用している人をどうするかの視点。
- ・このような利用者さんは読まない・見ない。
- ・しかし、内容は良いと思うので、ハンドブック P6～7 のポスターがあれば、意識付けは可能。
- ・むしろ、利用者を介助する人（家族）に渡す方がしっくりくる。

令和元年度第3回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

- ・太郎さんのような「外に出ない人」の対策が必要。
- ・心配して関わる人（近所の人とか）との連携。
- ・看護師＝「まちの保健室」。行政主導で「看護師さんが健康相談に乗ってくれますよ」などの周知があれば、もしかすると、住民の方が来てくれるかも。
- ・その際は、「8つの扉の対象職種」も集まって、このパンフレットを使って周知も（何か「おみやげ」があればよい）。
- ・8つの扉で看護師が能力を発揮するのは「排泄」。

【居宅介護支援事業連絡会・あまつなぎ】

- ・居宅連の強みは事業所が多い→フレイル対象者を見つける。
- ・市民に講演会を実施する。
- ・尼崎市の「未来いまカラダポイント」の付与。

【CM協会】

- ・CMは、まず、「8つの扉」を見せたい人（フレイルの人）が思い当たる。
- ・その方に見てもらうためには、まずCMがハンドブックの内容を知る事。
- ・さらにサービス提供者（デイ・ヘルプ）へ出前講座。
- ・利用者家族・企業（仕事する介護世代）にも見てもらう。PTAなども。
- ・この説明ができるパワポなどがあれば使いたい。
- ・映像（DVD）があれば、待合室などで流せる。
- ・待合室での「概要版ポスター」での周知。

【ヘルパー協会・あまつなぎ】

- ・家事援助はヘルパー任せが現状。このパンフレットで「一緒に進める」ことを伝えたい。
- ・「地域との交流の場」で活用。
- ・新しい居場所（こども会・学校など）の巻き込み。

【尼崎 PTOTST 連絡会】

- ・ハンドブックの最終ページ「フレイル予防の実践目標&結果」を印刷し、「目標をもって日々の生活を」を書いて、振り返ってほしい。（対象者に自分でやろうという気に）
- ・リハは、このパンフレットを説明しながら進めたい。
- ・リハの時間にパンフレットを用いて説明できる。

【南部民生児童委員（尼崎市民生児童委員協議会連合会）・南部生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）】

- ・民生＝訪問の際にハンドブックを説明、ふれあい喫茶で学習会。
- ・社協＝百歳体操など興味ある団体。高齢者見守り活動の見守り推進員へ渡し、見守り対象家庭に周知。老人クラブ・婦人会での周知。

令和元年度第3回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

男性＝パチンコ屋、競艇なども良いのでは。

- ・2.市民の立場に立って、各職種・団体がこんなことをしてくれたらやる気が出る・嬉しいと思えることとして、地域ケア代表者会議の参加 17 団体の方に研修時に来てもらって周知を。

【北部民生児童委員（尼崎市民生児童委員協議会連合会）・北部生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）】

- ・1.①すぐ出来そうなこととして、まず周知。ハンドブックの最終ページ「フレイル予防の実践目標&結果」を活用し、自己チェック。
- ・ハンドブック P6～7「フレイルチェック項目」から始めたら興味がわく。
- ・民生＝自分たちがまずよく勉強、地域の住民同士で数珠つなぎ的に広げる。
健診会場で周知（意識高い系）。
- ・フレイル予防＝社会参加が大事だが「拒否」。拒否者には民生さんも入りにくい、このパンフレットをきっかけに、一歩が踏み出せる。

【福祉課・南北保健福祉センター（地域保健課）・消防局救急課・あまつなぎ】

- ・予防救急。転倒予防などの研修も実施しておりこの場で使えそう。
- ・ただし「元気な人」が多く、「虚弱の人」へは、ケースワーカーなどの周知も必要だ。
- ・保健所保健師が「企業向け啓蒙」にも活用。
- ・活動を続けるためにも「ポイント制」。
- ・PR 動画を作り、待合室・薬局で流すなど。

【地域包括支援センター】

- ・1.①すぐ出来そうなこととして、介護保険の相談時、地域勉強会・交流会、違う勉強会(認サが講座の後など)。
- ・1.②実現に調整・検討を要することとして、地域活動者に協力を仰ぎ、発信をお願いする（見守り・ふれあいサロンなどの発信）。
- ・40～50 歳世代に訴えるような取り組みも大切。

令和元年度第3回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

2 今日の反省会（アドバイザー会議）

「介護予防・重度化防止ハンドブック」から考える

1. 各職種・団体内で「介護予防・重度化防止ハンドブック」を学び合う

- ・本日がお披露目のため、議論が深まらないのは致し方ない。今後、各職種・団体が知識を深めていく必要がある。
- ・まず、市民に対して普及啓発する各職種・団体がハンドブックを学ぶ。

2. 「介護予防・重度化防止」に興味がある人に対しては、さらに深めてもらう

3. 「フレイル」にハイリスクの人に対する取り組み方法の検討

- ・太郎さん、介護サービスを利用する手間の人への対策が必要。
- ・服薬指導での活用。家族とも話ができる。
- ・企画中の健康サポート薬局での活用。それは薬局だけではできないので、行政の力が必要。
- ・ひきこもりの人に対する啓発は行政による検討が必要。公民館などでの多職種による催しに出席してもらう。
- ・産業医がいない中小企業が利用する地域産業保健センターでの啓発活動。
- ・ハイリスクの対象者は各職種・団体に異なる。
- ・ハンドブック P6～7 の8つの扉のフレイルチェック項目を活用。特定保健指導のように、一定の点数の人に個別指導する。
- ・ハイリスク対象者の情報は国保・健保が得ている。
- ・退職前に家事を学んでもらい、フレイル予防の対策。
- ・要点を体験談形式で伝える。
- ・医者にも歯科にも薬局にも行かない人への普及啓発方法の検討は議論が深まらない。
- ・パンフレットのパワーポイントバージョンを作成し、市役所の窓口での待ち時間に流す。
- ・画像をダウンロードできるようにする。

4. 花子さん（意識の高い人）ではなく、太郎さん（意識が高くない人）にアプローチしていく事が大切

- ・検診会場、免許更新会場、理髪店、美容店などにハンドブックを置く

5. CM・居宅介護支援事業所による出張講座

- ・デイサービスのレクリエーションに出張。
- ・出張出前チームを立ち上げ、あまつなぎによるコーディネート。出張するのは地域の医師、CM。

6. 自発的活動の場での活用

令和元年度第3回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

7. 特定事業所・複数法人の研修での活用

参考 包括支援担当が考えている「介護予防・重度防止パンフレット」の活用方法

- ・専門職が市政出前講座などの会場に毎行かなくてもよいように、杉浦財団の補助金を活用して、8つの扉ごとに作った人が登場する映像を作りたい。
例：)医師なら夏秋先生 etc..
- ・各地区で包括と行政が主体になって実施する多職種交流会で「介護予防・重度化防止パンフレット」「身寄りなし知恵袋」を読み込み、学んでいく。